

会派視察報告書

会派の視察における調査結果について、下記のとおり報告します。

令和8年5月22日

光市議会議長 森戸 芳史 様

光市議会 会派「共創」 田中 陽三
仲山 哲男

- 1, 視察年月日 令和8年3月27日
- 2, 視察先 山口県光市農業振興拠点施設「里の厨」
- 3, 調査結果 別紙のとおり

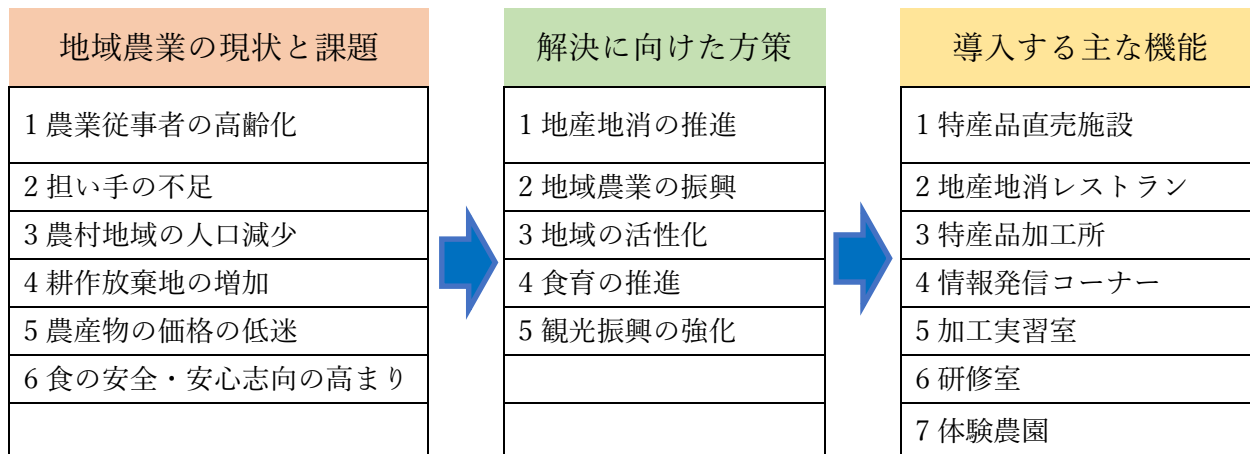
光市議会会派「共創」視察調査結果報告書

日 時	令和8年3月27日 13:30~15:30
視察先	山口県光市大字束荷 農業振興拠点施設「里の厨」
テーマ	里の厨の現状と今後について（施設見学含む）
目 的	平成23年7月の開店から今年で15年目を迎える「里の厨」。 農業振興拠点施設としての役割だけではなく観光拠点施設としての役割も担う中、農家の高齢化や担い手不足など地域農業の課題、燃料費や物価高騰など厳しい社会変化の影響がある中で、来店者数、出荷者数、売上等どのような状況にあり、どのような経営を行っているのか、またどのような経営戦略で取り組まれているのか。 現場の声をお聴きし、現状を知り、今後に活かすために視察しました。
対応者	里の厨事業協同組合 代表理事 森田悦登 氏、 店長 森田哲次 氏 光市役所 農林水産課 課長 影土井洋治 氏、 係長 清水剛 氏



1 概要

【光市農業振興拠点施設整備の意義と必要性】



【経緯】

平成 17 年 11 月 光市地産地消プラン策定

平成 19 年 3 月 光市特産品直売施設基本構想策定

平成 19 年 7 月 光市特産品直売パイロットショップ 実証事業（4 年間）

平成 21 年度 光市農業振興拠点施設基本・実施設計

平成 22 年度 光市農業振興拠点施設建設工事

平成 23 年 7 月 光市農業振興拠点施設「里の厨」オープン

【運営】

- ・「里の厨事業協同組合」が指定管理者で管理
- ・役員 理事 10（うち代表理事 1、副代表理事 1）、幹事 2
- ・組合員数 262 人（令和 6 年度末）

【事業内容】

(1) 直売事業

ア 販売方式：委託販売

イ 取扱品目：地元産の野菜、米、精肉、鮮魚等の農林水産物及び加工品

ウ 販売手数料：農産物 15%、施設内製造加工品 20%、施設外製造加工品 15%

エ 販売速報メール配信サービス

オ 集荷事業

カ 学校給食への食材納入事業

キ 楽農塾

(2) 加工事業（総菜加工委託、パン加工委託）

ア 総菜加工

イ 餅加工

ウ パン加工

エ 米粉製造

オ そば粉製造

(3) 体験研修事業

ア 農業体験教室

イ 加工品づくり体験教室

ウ 調理体験教室

(4) レストラン事業

(テナント (地域飲食店経営業者))



2 現状について

- ・光市販売農家数が減少傾向にある中、本組合でも高齢化による出荷者の退会が後を絶たない状況がある
- ・出荷者数、出荷点数は減少を続けている状況で、農産物の売上高（販売手数料）も減少傾向である。
- ・世界情勢の緊迫化による原油価格の高騰を発端とした燃料費をはじめとした物価の高騰等により、電気料金の上昇や人件費の高騰もあり、店舗事業は非常に厳しい状況である。
- ・そのような中、生産者の育成を行いながら、経営面では人員削減、営業時間の見直し、広告出稿の取りやめ、電力会社の変更、集荷コースの集約などコスト削減を強力に推進すると共に、売上高アップの施策として、鮮魚、精肉、総菜、単価の高い果物類の販売強化、新規出荷者の開拓や既存出荷者への出荷量増量のお願いなどを行い、令和6年度は売上高、来店客数共に、おおむね昨年並みかわりかな上昇となっている。
- ・しかしながら、人件費や光熱費はさらに上昇傾向にあり、施設・設備の老朽化も進んでおり、今後は修繕費の急激な増加が予想される。

意見交換・主な質疑応答

Q 経営状況について、説明以外に厳しい要因

A 施設使用料として総売上高の 1.5%（年間約 400 万円前後）を光市に支払っており、大きな負担となっている。

Q オープン当初から今に至るまでの変化

A オープン当初は、人件費を抑えて内部留保も確保していたが、2018 年頃から出荷人数、量が減少して客数も売上も減少し始め、新型コロナウイルスの影響もあり厳しい経営状況となり内部留保も減少した。

Q 経営改善の取組を具体的に

A 4 年赤字が続いたのでフェアを積極的に開催。出荷者を市内しほりから周辺に広げ、8 月・9 月にはぶどう等の高額商品の販売、周防大島からみかん農家の出荷も開拓している。

所感

普段、買い物客としては利用させていただいていますが、里の厨の経営状況については議会でもなかなか聴けないので、現場の声をお聴きする貴重な機会となり、コロナ禍や社会変化により厳しい経営状況がある中で、指定管理者として様々な経営努力を行い収益の改善に取り組まれていることも一定の理解ができました。

「指定管理に関する現状について」の資料も提供いただきましたので、今一度それぞれの数字の経過を分析して、光市、里の厨事業協同組合それぞれにできる事を洗い出し、協議して一緒に取り組む必要があると感じました。

また、周辺の類似施設と比較もしながら客観的な分析もする必要もあると考えます。

いずれにしましても、光市農業振興拠点施設として整備した目的に向けて、また、運営団体であります里の厨事業協同組合の設置目的であります「地場産農産物の販売を通じ、本市の地域農業を振興し、生産者と消費者の交流促進を図ることにより活力のある地域社会に資するため、光市農業振興拠点施設里の厨の健全な運営を図る」に従い、光市内の農業者、出荷者が活力に満ちて生産活動を行えるように、消費者も喜んで里の厨を訪れることができるような改善を今後も期待したい。

令和 8 年度には、「農業振興に向けた企画立案」や「里の厨の活性化支援」のミッションで地域おこし協力隊員の着任も予定されているので特に期待します。